

## 米品質向上のポイント

- ① 堆肥・土づくり肥料を施用し地力を高める
- ② 適正な植付本数の実施（過剰生育の抑制）
- ③ 活着後の間断かんがいの実施
- ④ 中干しの実施（過剰分けつ抑制）
- ⑤ 早期落水をし（出穂後30日を目安、乾燥が続く時は、走り水の実施）

## 生産基準と管理 (使用量10a当たりの目安)

### 「おいしい米づくり」を目指すなら 目標:食味値85以上

**【おいしい米づくりのポイント】**  
品種にあった環境、栽培条件等を整え健康で食味のよい米を作ろう！

**＜栽培のポイント＞**

- 土づくりで地力を高める  
適正な地力が食味向上に影響するため 土壌診断結果に基づき土壌改良、施肥を行う。  
(鉄分、ケイ酸分等の施用)
- 適期田植えの励行  
登熟期の気温が食味に影響するため、早生品種(コシヒカリ、ひとめぼれ)の早期田植えをおこなわない。

品種	50株/坪 (株間22cm)	60株/坪 (株間18cm)	70株/坪 (株間15cm)
コシヒカリ	24本/株	20本/株	17本/株
ひとめぼれ	24本/株	20本/株	17本/株

●有効茎数の目安  
○栽培密度ごとの必要茎数 (収量540kg/10a)

品種	穂数(本/㎡)	1穂粒数(粒/穂)	登熟率(%)	千粒重(g/千粒)
コシヒカリ	370本	80粒	82.9%	22.2g
ひとめぼれ	380本	75粒	82.9%	22.9g

●収量構成要素  
○収量600kg/10aを目指す場合の収量構成要素

品種	穂数(本/㎡)	1穂粒数(粒/穂)	登熟率(%)	千粒重(g/千粒)
コシヒカリ	400本	80粒	85%	22.2g
ひとめぼれ	410本	75粒	85%	22.9g
中生新千本	440本	70粒	85%	22.9g
あきろまん	380本	85粒	85%	22.0g

### 「多収穫生産」を目指すなら 目標:収量600kg/10a

**【多収穫生産のポイント】**  
穂数の確保と登熟の向上により多収穫を目指す！

**＜栽培のポイント＞**

- 必要茎数の確保  
○収量600kg/10aを目指す場合の栽培密度ごとの必要茎数
- 収量600kg/10aを目指す場合の収量構成要素

品種	穂数(本/㎡)	1穂粒数(粒/穂)	登熟率(%)	千粒重(g/千粒)
コシヒカリ	400本	80粒	85%	22.2g
ひとめぼれ	410本	75粒	85%	22.9g
中生新千本	440本	70粒	85%	22.9g
あきろまん	380本	85粒	85%	22.0g

●基本的に一発肥料ではなく分施肥(基肥+穂肥)を実施する。(生育、葉色に応じた施肥管理)

●水管理(間断かんがい、中干し等)を徹底し、根量を増やし、健全に維持する。

### 水がしと播種日の目安(例)

播種期	水がし開始期	播種期	田植期
早生種 4月10日	4月20日	5月15日	
中生種 4月20日	4月30日	5月20日	

●種子量に対する薬液・水量の目安

播種期	1反(10a)	2.5反(25a)	5反(50a)	1町(100a)
種子必要量	4kg	10kg	20kg	40kg
種子消毒時の水量	8リットル	20リットル	40リットル	80リットル
種子消毒剤	テラトクロアフル100ml(200倍)	40ml	100ml	200ml

## 種子消毒

※消毒済み種子(ブルーに着色された粉)は ⑤水がしから始めてください。

- ① 塩水選  
塩水により不良もみを除去する。
- ② 水洗い  
水洗いで塩分を落とす。網袋へ7分目程度に詰める。(水切りを充分にすること)
- ③ 消毒  
水20リットルに対しテラトクロアフル100ml(200倍)を24時間浸漬。効果を安定させる為、10℃以上(15~20℃が最適)の状態で浸漬する。(種10kg/消毒槽)
- ④ 風乾  
24時間以上日陰で風乾
- ⑤ 育苗管理  
育苗器使用の場合 出芽温度28~30℃ 1~2日開とする。温度管理に十分留意する。
- ⑥ 水がし  
育苗器使用の場合 30℃の温度でハト胸状態で芽だしを行う。
- ⑦ 播種  
播種量(1種当り) 播種期 播種量(10a) 播種期 播種量(10a) 播種期 播種量(10a) 播種期 播種量(10a)
- ⑧ 芽だし  
30℃の温度でハト胸状態で芽だしを行う。
- ⑨ 水がし  
育苗器使用の場合 30℃の温度でハト胸状態で芽だしを行う。

品種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月~3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
早生種 ひとめぼれ	田植え (標高300m以上 5月5日~15日 / 300m以下 5月15日~25日)			間断かんがい			中干し 満切りの実施			間断かんがい			出穂期			稲刈り			落水 (落水は出穂後30日を目安とする。落水後乾燥が続く時は走り水をする)		
	リン酸肥料 28kg 土重焼燐 20kg			追肥 けい酸加里 プレミア34 30kg			穂肥 い〜ね707「改」 7~11kg			出穂後の水管理			出穂後20日間は、水不足にならないように、飽水(足跡に水がある)で管理します。			判定方法			この大きさは 防除は難しい!		
中生種 あきろまん	田植え (5月15日~30日)			間断かんがい			中干し 満切りの実施			間断かんがい			出穂期			稲刈り			落水 (落水は出穂後30日を目安とする。落水後乾燥が続く時は走り水をする)		
	リン酸肥料 28kg 土重焼燐 20kg			追肥 い〜ね403「改」 7~9kg			穂肥 い〜ね707「改」 10~15kg			出穂後の水管理			出穂後20日間は、水不足にならないように、飽水(足跡に水がある)で管理します。			判定方法			この大きさは 防除は難しい!		

## 除草剤散布前後のポイント

### 除草剤の仕組み

一般的に水田に散布された除草剤はほとんど水に溶けて3~4日かけて土壌に吸着され、土壌表面に薬剤の「処理層」(およそ土壌表面から3cm程度の深さ)を作り、雑草の成長点が処理層に接触し雑草を枯らし、発芽させない仕組みです。

### 使用上の留意点

- ① 代かきは丁寧に均平を保つこと。  
土壌が均平でない深い所に薬剤が多く溜まり、薬害の原因になる場合があります。また、湛水深が不足すると効果ムラの原因となります。代かきを丁寧に、畦の補強をして湛水深をしっかりと保てる圃場環境の整備をしましょう。
- ② 雑草発生前の早めの散布をしましょう!  
防除できる雑草の大きさは おおむね決まっています。
- ③ 除草剤散布後は、3~4日間は湛水状態を保ち補植は行わない。  
効果を安定させるため、3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しを避けましょう。除草剤散布後の補植は水田内を歩行することにより処理層を壊し、効果が低下する原因となります。また、補植した苗の根が直接処理層に触れるため、薬害の原因となります。

## 除草剤の使い方

除草剤使用時期	田植	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
低コスト(一発処理)	田植	ジェイフレンド(1キロ粒剤)																								
標準(体系処理)	田植	サキドリEW又は エリジャンジャンボ																								
高機能(体系処理) 難防除雑草対策	田植	テマカトフロアブル																								

品名	使用量(10a)	使用時期
ジェイフレンド(1キロ粒剤)	1kg・500ml・400g	田植後〜ノビエ3葉期まで(移穂後30日まで) 田植同時散布可能 移穂後5日〜ノビエ3葉期まで(移穂後30日まで)
サキドリEW(1キロ粒剤)	500ml	田植後〜移穂前7日又は、移穂後〜ノビエ1葉期まで(移穂後30日まで)
エリジャンジャンボ(1キロ粒剤)	300g	田植後〜移穂前7日又は、移穂後〜ノビエ1葉期まで(移穂後30日まで)
サラブレッドKAI(1キロ粒剤)	1kg・500ml・400g	田植後〜ノビエ2.5葉期まで(移穂後30日まで)
ゼータタイガー(1キロ粒剤)	1kg・500ml・300g	田植後〜移穂前7日又は、移穂後〜ノビエ3葉期まで(移穂後30日まで) 田植同時散布可能 移穂後3日〜ノビエ3葉期まで(移穂後30日まで)

### 肥料成分表 (%)

肥料名	N(窒素)	P(リン酸)	K(加里)	備考
三次きんさい米基肥	10	14	12	有機30%, けい酸5%
い〜ね403「改」	14	10	13	
早生ロング364	13	16	14	早生専用一発 M(苦土)2%
早生い〜ね755	17	15	15	早生専用一発 (低コスト)
ネオベスト1号	12	12	12	
ピカイチ302	23	10	12	中生専用一発
中生い〜ね502	25	10	12	中生専用一発 (低コスト)
けい酸加里プレミアム34	0	0	20	ケイ酸34.0 苦土4.0 ホウ素0.1
い〜ね707「改」	17	0	17	
ネオベストSR-502	15	10	12	

### 中干しの目安

●小さい風割ができる程度に繰り返す。  
●中干し時に満ちりを行う。  
●小さい風割が繰り返され、足跡が残る程度。(ときどき走り水を行う。)

### 葉色値の目安

※使用に当たっては、専用の葉色紙を使用して下さい。

葉色値	1	2	3	4	5	6	7
-----	---	---	---	---	---	---	---

### 穂肥の施用目安(うるち米)

品種	施用時期	適正葉色値	穂肥の目安	施用量
コシヒカリ	出穂18日前	3.5	い〜ね707「改」	7~11kg
ひとめぼれ	出穂20日前	4.5	い〜ね707「改」	11kg
中生新千本	出穂24日前	4.0~4.5	い〜ね707「改」	12~15kg
あきろまん	出穂24日前	3.5~4.5	い〜ね707「改」	10~15kg

### 倒伏軽減

満切り、中干し、間断かんがいで根を健全に保ち、節間の伸長を抑えるとともに、倒伏が予想される場合は倒伏軽減剤の使用も効果的です。

30日前 20日前 15日前 軽減剤の使用

出穂前日数	54cm以上	68cm以上	75cm以上
-------	--------	--------	--------

### 倒伏軽減剤使用時期の目安

出穂前日数	倒伏軽減剤の使用
-24	ロミカ粒剤
-20	ピピル粉剤DL
-10	ピピル粉剤DL
-5	ロミカ粒剤

### 後期除草剤(残草対策)

品名	使用量(10a)	使用時期	使用方法	
トドMFM1キロ粒剤	1kg	移穂後14日〜ノビエ5葉期(収穫前50日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布	
トドMFM200ml	200ml	移穂後14日〜ノビエ7葉期(収穫前50日まで)	湛水散布又は落水散布	
ヒエクリン豆つぶ250	250g	移穂後15日〜ノビエ4葉期(収穫前45日まで)	湛水散布、湛水噴霧又は無人航空機による散布	
クリンチャージャンボ	1袋20ヶ(1kg)	移穂後15日〜ノビエ4葉期(収穫前30日まで)	水田に小袋(1ヶ)のままで投入	
バスザン粒剤	3~4kg	移穂後15日〜55日(収穫前60日まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布	
サガンチ1キロ粒剤	1kg	移穂後15日〜ノビエ3.5葉期(収穫前60日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布	
アトドリ豆つぶ250	250g	移穂後20日(第5葉期以降)〜ノビエ4葉期(収穫前45日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布	
クリンチャーASME液剤	薬量1000ml(100倍液)	移穂後15日〜ノビエ5葉期(収穫前60日まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布	
クサネムイボクサが残った場合	ノミニー液剤	薬量50ml〜100ml(2000~1000倍液)	移穂後30日〜(クサネムの草丈40cm、イボクサの草丈30cmまで)(収穫60日前まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布

### 水田からの濁水流出による河川等の汚濁防止について

水田からの濁り水が河川に流出すると、農業者にとって大切な水田の土や水などを失うだけでなく、河川が濁り、水生生物の産卵である岩ゴケの生育を阻害するなど、環境にも負荷をかけることとなります。次のことを心がけ、環境にやさしい農業に取り組みましょう。

1. 畦畔からの水漏れを防ぎましょう!
2. 代かき・田植え時に排水口から濁水がないよう確認しましょう。
3. 浅水で代かきし、田植え前の落水を行わないようにしましょう!